

日本人の中のクリスマスとサンタクロース

クリスマスが近づくにつれて、子どもたちのワクワクはどんどん大きくなります。一方で大人たちも、その準備で慌ただしくなっていることでしょう。幼稚園では子どもたちがクリスマスの制作物を作って、飾りつけをしています。先生は子どもたちにクリスマスの絵本を読んであげたり、歌を一緒に歌ったりしています。日本人の家庭ではクリスマスはどのように捉えられているのか見てみることにしましょう。

クリスマスは誕生日と並ぶビッグイベント！

多くの子どもたちにとって、クリスマスはサンタがプレゼントを持ってきてくれると信じていることもあり、誕生日と同じような位置づけとされているようです。そのため、誕生日とクリスマスが同じ日、もしくは、時期が近い子どもに出会うと、その子どもが「誕生日とクリスマスが一緒だからいつもプレゼントやケーキがまとめられて一つになっちゃうんだ…」と残念そうに言うのを聞きます。

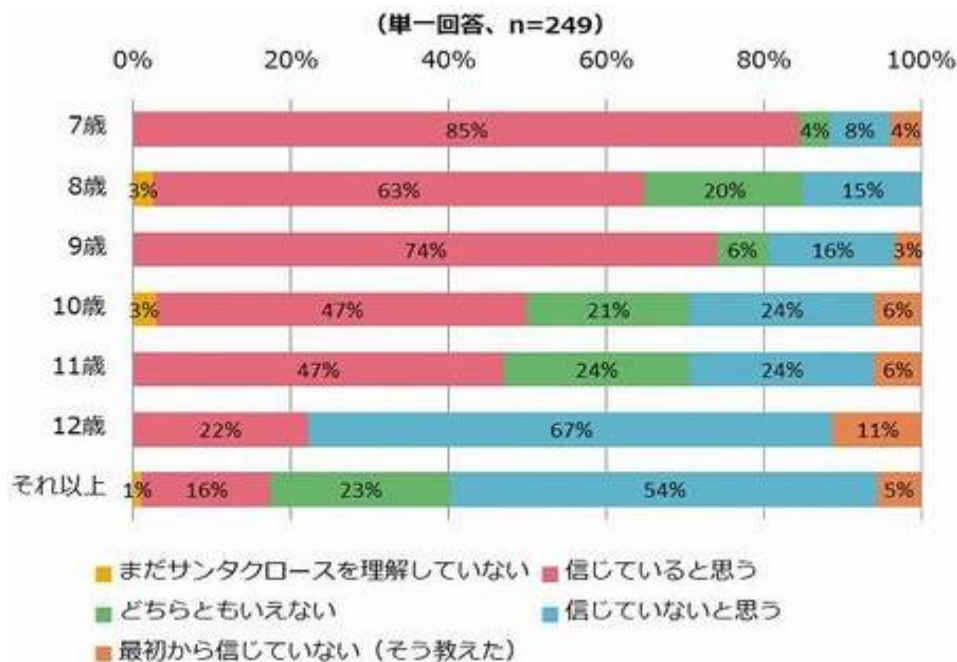
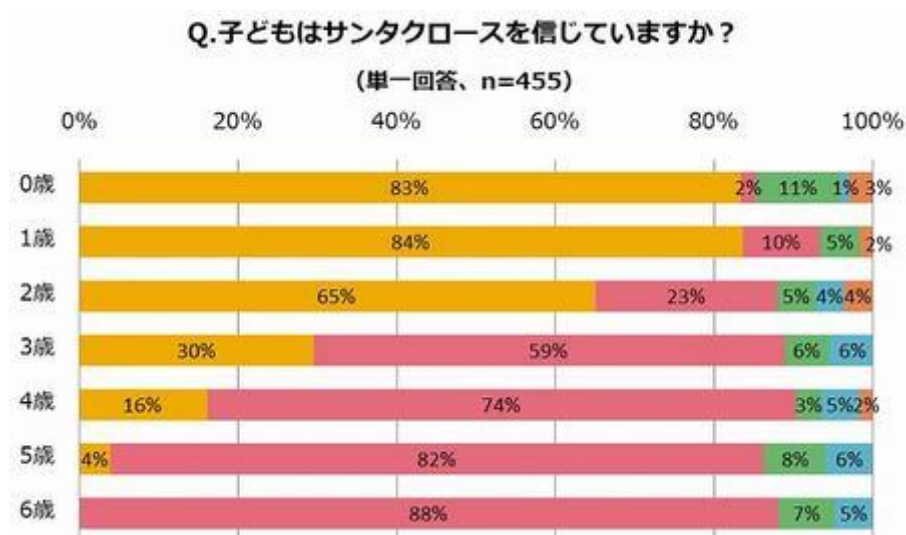
実際に、筆者も誕生日がクリスマスから離れている時期の子どもやその親に話を聞くと、確かに誕生日とクリスマスでそれぞれのプレゼントやケーキがあったそうです。それゆえ、誕生日がクリスマスに近い子どもからすると、彼らの多くは毎年もう一つのケーキとプレゼントを損していると感じているようです。

クリスマスが誕生日と並ぶビッグイベントである一方で、誕生日とクリスマスとは位置づけが違います。誕生日は子どもの誕生日をお祝いするために、おうちの人やケーキを買ったり、プレゼントを送ったりします。しかし、クリスマスとなると、サンタがクリスマスの日の12月25日0時に出発して夜のうちにいろいろな家を回ってプレゼントを配るという認識となります。送る人はサンタであるかもしれないですし、もしかするとパパサンタやママサンタ、はたまた、宅配業者に扮したサンタなのかもしれません…。

サンタクロースは本当にいるの？

子どもたちは、自分の欲しいものをサンタへ伝えるために、手紙や絵にかいてツリーや靴下の中などに置きます。サンタがそれを読んで、プレゼントを準備して持ってきてくれる。手紙や絵を描いているときの子どもたちの顔は楽しみでいっぱいです。

下記調査によると、3歳くらいから約6割の子どもがサンタを信じはじめ、6歳ではそれは8割にも上るそうです。だが、10歳あたりからサンタがいるのかということに疑いを持ち始める子どもが増え、信じる人の数は徐々に減っているようです。



子どものお出かけ情報を発信している情報サイト「いこーよ」より引用
<https://iko-yo.net/articles/2779>

それぞれのおうちのサンタクロースの話

サンタクロースの取り扱いに関しては、それぞれのおうちで違って実にさまざまのようです。一番多いのが、おうちでサンタやクリスマスの絵本や歌をすることで子どもにクリスマスを伝えるとなりました。

クリスマスに関連する子どもの絵本や童謡の種類はとても豊富です（下記写真をご参照）。それらを通して、子どもたちは、サンタがたくさんの子どもたちのプレゼントをそりの荷台に積んで、トナカイに引っ張ってもらうそのそりに乗ってみんなの家にプレゼントを届けに来るのだと認識するようです。

たくさんのきれいなクリスマスの絵本を見ていると、国柄によってサンタさんがプレゼントを届けに来る場所が違うようです。欧米の絵本の場合、サンタの多くはクリスマスツリーの下にプレゼントをたくさん置いて行っているようですが、日本の絵本ですと、枕元やベッドのそばの靴下の中にプレゼントを置いてくれているようです。調査に協力してくれた回答者の中には、靴下のみならず、サンタとトナカイへのねぎらいとしてミルクやコインを置いてサンタを待ちわびていた方もいました。サンタはミルクが好きということなども、フィンランドの絵本から知ったそうです。欧米と日本のほとんど絵本で、サンタは煙突から家の中に入って来るという描写が多かったですが、中には窓から入って来るサンタもいました。煙突がない家も安心できそうです。



絵本①「くるみ割り人形
クリスマス」



絵本②「ねむいねむいねずみのク
リスマス」

筆者の家では、子どもたちにクリスマスの本来の由来についての絵本③「クリスマスってなあに」を読みました。幼い年齢の子どもにとって、イエス・キリストなどの理解はまだできないかもしれませんが、毎年繰り返し読むことによって、記憶のどこかに少しでも知識としてとどまってくれたらと思っています。子どもたちはサンタを信じているようで、子どもからサンタにお手紙を書

こう！というアイデアが出たので、筆者は子どもが描きやすいように紙を準備しました。子どもたちは自分の欲しいプレゼントをサンタに伝えようと、一生懸命に本で文字を探して書いていました。まだ字が書けない下の子も、上の子に助けを求め、えんぴつで薄く書いてもらった上に、自分でがんばって書いていました。その行為には、筆者も驚いた限りです。やはり、子どもにとっての原動力は「〇〇したい！」という意欲なのだと改めて気づかされました。

子どもたちが書き終えたサンタへの手紙は、みんなで一緒にクリスマスツリーに飾りました。どうしてクリスマスツリーに飾るのかという理由を子どもに聞くと、「幼稚園の〇〇先生が言っていた！」という返答が。小さい子ども、自分の興味があることや気になる情報はしっかりと聞いて覚えられるのだなと、感心させられました。



圣诞老爷爷
我想要自行车。
拜托您了。

(下面画了圣诞树和孩子想象中的自行车)

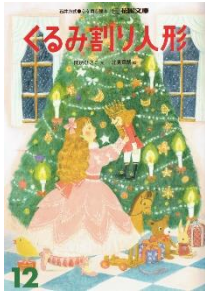
新型コロナウイルスによって暗いニュースが多かった今年ではありますが、WHO 世界保健機構によるとサンタはウイルスに対する免疫があるため、今年もみんなのところへやって来る準備をしているそうです。

客観日本の読者の皆様のところへも、きっとやってくることでしょう。

明日は明るい未来の第一歩であると信じて…、メリークリスマス！

日文/照片：[原田捷子](#)

编辑修改：JST 客观日本编辑部



絵本①
花園文庫「くるみ割り人形」
株式会社登龍館



絵本②
佐々木マキ「ねむいねむいねずみのクリスマス」
PHP 研究所



絵本③
ティック・ブルーナ「クリスマスってなあに」
講談社